



ND BULLETIN

Vol. 201

issue

November 2018

[卒業生・在学生対談]

清心で育まれ続ける、 他者と共に鳴する力

「心の共鳴」が、
自分の生き方を確立するための
“かけがえのない力”になる
AMDA × 西日本豪雨支援プロジェクト



夏季海外英語研修
ASEACCU国際学生会議
フランシスコ・ボランティア
キャンプ2018 in台湾
第55回大学祭「Harvest!」

file.01

清心で育まれ続ける、 他者と共に鳴する力

西日本豪雨の支援活動や大学の学びの中で経験した「心の共鳴」が、自分の生き方を確立するための“かけがえのない力”になると教わりました。

西日本豪雨で被災された人々のためにできることを

三村 まさか「晴れの国おかやま」で、しかも自分の住む近くで災害が起きるとは考えてもいませんでした。

難波 そうですよね。AMDA^{*}にとっても、岡山での水の災害は想定外のこと。思ぬことが起きてしまったという気持ちをみんなが抱える中で、それでも支援が迅速にできたのは、東日本大震災の時から総社市と連携して災害救援の活動を重ね、被災地での経験がある行政職員と共に

活動できたからなんですね。

三村 総社市や被害の大きかった真備町には友人も多く住んでいますので、AMDAの活動はとても心強く感じたのではないかと思います。

難波 AMDAでは、困った時はお互い様という相互扶助を活動理念に、パートナーシップによる支援を活動の柱に置いています。今回の活動でも、私たちの掲げる「人道支援の三原則」の3つ目、「援助を受ける側にもプライドがある」ということを一番大事に考えて支援活動をしたんですよ。

三村 私たちも被害を受けた身近な人たちのために何かできることはないと考え、ゼミの先生に相談して立ち上げたのが、西日本豪雨支援プロジェクトチーム「がんばるんジャー」です。

太田 私は熊本県の出身で、熊本地震で受けた支援の恩返しがしたいと地元の友人と一緒に活動に参加しました。

遠藤 賛同してくれたメンバーで募金活動を行った結果、約半月で100万円を超える金額が集まり、被災された学生と教職員の方にお見舞金を渡すことができ本当に嬉しかったです。

* The Association of Medical Doctors of Asia

卒業生

1986年 文学部英語英文学科 卒業
難波 妙（旧姓：野々村）

2003年から国際医療ボランティアAMDAで国内外の緊急医療支援活動や復興支援活動に携わる。2011年から同理事。2014年から世界平和パートナーシップの支援局長を務める。

【AMDAの活動】

国連総合協議資格 NGO。
相互扶助の精神を理念に、緊急人道支援活動を展開。
2018年7月の西日本豪雨では、総社市と連携して災害救護活動を行う。

在学生

人間生活学科 4年 遠藤 瞳子 人間生活学科 4年 三村 智奈美 児童学科 4年 太田 奈緒美

【がんばるんジャーの活動】

学生有志で西日本豪雨支援プロジェクトチームを立ち上げ、手作りの募金箱を手に学内で募金活動を実施。



「誰かのために」という思いの 基本にある「共鳴する力」

三村 募金活動を通して私が感じたのは、清心の学生たちはいい人、心のきれいな人が多いなということです。誰かのために何かしたいという気持ちを持っていないと、募金活動には参加しないと思うんです。

一同 うんうん(力強く頷く)。

太田 一緒に活動はできなくても、集めてくれたお金を貯金箱に詰めて持ってきてくる学生もいて、困っている人のために協力したいという学生が多いと感じました。

遠藤 人のために何かをする、支え合うという気持ちは、清心に入学して故・渡辺和子先生や他の先生方の授業を通して身につけた学生が多いと思います。また、募金活動でこれだけの結果を出すことができたのは、私たちだけの力ではなく、先生方の協力があったから。支えていただいたことに対して感謝の気持ちでいっぱいです。



難波さんの学生時代の一番の思い出は、1984年にマザー・テレサが来学し講話された時のこと。渡辺和子学長(当時)の通訳が、まるでマザー・テレサが日本語で語りかけるかのようだったことに衝撃を受け、「これが英語の学びだ」と思ったそう。

だから三村さんの言う「いい人」とは、「共鳴する力」がとても強く、柔軟であるという意味なのではないでしょうか。私の中でも清心で学んだことが、自分の考え方や生き方の基本になってるのではないかと思います。

「大切だよ」と押し付けがましく言うのではなく、もしも起きて欲しくない出来事が起きた時に、「自分たちにできることはないかな」という声かけをすることで、「共鳴する力」を子どもたちの中に育てていきたいと思います。

遠藤 私も福祉の教師になるので、太田さんのように、このボランティアを通して得た助け合いや支え合いの気持ちを多くの生徒に伝えていきたいです。また、子どもたちを守るために必要な教員の助け合いや他機関との連携も大切にしたいと思います。

難波 最後に清心の卒業生として、みなさんにぜひ伝えたいことがあります。社会人として経験を積み、年齢を経ることで意味を深く理解できたことがあるんですね。それが、この大学が基本にしている「リベラル・アーツ教育」というものです。私が思うに「リベラル・アーツ」とは、多様性の中で、自分の生き方を確立するための「心の力」を育むこと。みなさんはこれからいろいろな人たちと出会うことになります。でも、出会いがあれば別れもあり、辛いこともある。その中で、自分を見失わないための「心の力」を、この大学で学び、多くの人々と「心を共鳴すること」で育んだと思うんです。その経験は本当に自分の宝になる。その宝を忘れないでほしいなと思います。



自らの経験を語る難波さん。

難波 みんなの話を聞き、自分の学生時代も振り返って感じるのは、学生たちや先生方との間にある、人の気持ちに対する「共鳴する力」というものの存在です。清心で私が学んだのは「共鳴する力」であると、歳を重ねてきた今だからこそ、改めてそう思います。その「共鳴する力」が、「誰かのために」という気持ちの基本になっているのではないかと思うんですね。「共感」というのは、お互いの気持ちを分け合うことですが、「共鳴」は、心の苦しみや辛しささえも全部汲み取って同調すること、深いところで繋がること。

自分の生き方を 見極める能力が育つ場所

三村 私たちは4年生なのでもうすぐ社会に出ます。難波さんがおっしゃった「共鳴する力」の話を聞いて思ったのは、いずれ自立できたとしても、独りでできることには限りがあるって、隣に人がいてこそ自分が成り立っていくものだということです。だから、周りの人を大切にしたいですし、支援活動に参加して得た助け合いの精神を社会に出ても忘れないようにしたいと思います。



「命を大切に」という話に熱心に耳を傾ける学生たち。

太田 私は地元の熊本に戻って、小学校の教師になります。子どもたちには地震の話を通じて「共鳴することの大切さ」を、

学生が主人公。 脈々と受け継がれる 伝統と精神性に光を。

ノートルダム清心女子大学 学長 原田 豊己 神父

このたびの豪雨災害で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表すとともに、被災された方々に勇気と慰めが与えられますよう、心よりお祈りしております。

また、本学の西日本豪雨支援において温かいご協力・ご支援いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

さて、学報『ノートルダム清心女子大学 BULLETIN』は、1971年11月15日に第1号が発刊されました。それ以来、定期的に発行を重ね、本学の今を伝える広報誌としての役目を担っています。この度、第201号という節目を機にリニューアルを行い、内容をさらに充実させた学報を皆様にお届けできることをたいへん嬉しく思います。

これからの中報は、学内での出来事や報告事項を掲載するのみにとどまらず、本学と関係の深い皆様との絆を育むコミュニケーションツールであるべきだと考えます。本学と関係のある方々は、在学生とその保護者、卒業生、学園関係者や教職員、さらには高等学校や他大学、企業などの一般関係者まで広がりますが、その中でも、特に絆を深めていきたいのは、本学の主人公である学生及び卒業生の方たちです。在学生はもちろんですが、本学を巣立ち、社会や家庭で活躍する多くの卒業生たちもまた主人公です。リニューアルした学報では、本学で知性と道徳、自分を表現する力を身につけた学生をはじめ、社会や平和のために貢献する卒業生、また目立たずとも心温まる声かけや尊い行いにも光をあて、主人公たちを紹介してまいります。その姿を通じて、本学の伝統や精神性が脈々と受け継がれていることを皆様に感じていただき、絆を深めていくことができれば幸いです。

これからも本学では、岡山県下唯一の女子大学の特性を生かし、リベラル・アーツ教育のもと、自らの力で考え行動できる「真の自由人」として、社会と平和のために貢献する力を身につけた、開かれた時代にふさわしい人材を育成してまいります。そして、この新しい『ノートルダム清心女子大学 BULLETIN』がその一助となるように、さらなる充実を目指していきたいと思います。



07

July

Project

西日本豪雨支援プロジェクト

7月11日(水)に、学生有志によるボランティアグループ「西日本豪雨支援プロジェクトチーム(がんばるんジャー)」と、全学体制で被災された学生の状況を把握し励まし寄り添うために、学長事務室を窓口に「NDSU災害対応センター」が発足しました。

身近な人のためにできること

西日本豪雨支援プロジェクトチームは学生が主体となって活動し、7月12日(木)から31日(火)まで募金活動と支援物資(タオル)の収集を行いました。学生や教職員、附属小学校・幼稚園等からの温かい支援のおかげで、募金総額は1,037,510円となりました。

NDSU災害対応センターでは、専用のメールアドレスを設け、通学困難な学生に各部署と連携を取りながら対応しました。また、同窓会では、通学困難な学生に同窓会館を宿泊施設として開放しました。微力ではありますが、今後ともプロジェクトを継続していくことが私たちの使命であると思っています。



募金活動

活動報告

支援プロジェクトの活動

募金活動は昼休みに計5回実施しました。チームのメンバーが学内にて、それぞれ手作りの募金箱を手に、学生たちへ呼びかけを行いました。募金は、被災された学生・教職員にお見舞い金としてお渡しし、一部は義援金として岡山市、倉敷市にお届けしました。また、集めたタオルは、岡山市や倉敷市に運びました。



集まったタオル

資料レスキー

10月から本学内で、岡山史料ネット(地域の歴史・文化を守り、伝えるための活動をする民間団体)が主体となって、豪雨浸水等による資料修復活動が始まりました。現代社会学科の藤實久美子教授がパイプ役となり、本学在学生もボランティアとして参加し、「絵画修復工房YeY」斎藤裕子代表の指導のもと、資料修復を行いました。



アルバム写真や絵の修復作業

08

—
August

International
exchange

夏季海外英語研修に参加して(体験談)

8月10日(金)～31日(金)の3週間、ピクトリア大学イングリッシュ ランゲージセンター(カナダ)で語学研修(夏季海外英語研修)を実施しました。学生たちは少人数制のクラスに在籍、ホームステイし、英語力向上や多文化理解を深めました。

私のAWESOME!な3週間

私は元々英語を学ぶことが好きで、現地に飛び込むことでもっと自分の殻を破りたいと思い、今回参加しました。午前中の授業はもちろん、午後からのアクティビティでは様々な文化体験ができたり、休み時間や放課後には、おいしいものを食べすぎて胃が大きくなったりと、みんなで終始笑って過ごしました。なにより、私のつたない英語を理解してくれようとし、私を本当の家族の一員のように温かく受け入れてくれたホストファミリーには感謝してもしきれません。学校や先生、仲間、ピクトリアという地、そしてホストファミリー、全てがAwesome!(最高!)な環境に恵まれ、たくさんの成長を感じることができました。今の楽しみは、2年後に日本に旅行に来るファミリーのツアーガイドをすることです。



ホエールウォッチングで出会った陽気な船長ミック
(於 インナーハーバー)

文学部 現代社会学科2年 長谷川 萌夏

自分次第でなんでも

「みゆ、大切なのは、楽しむことを忘れてはいけないんだよ！！」という言葉がとても心に残っています。私は、海外研修に参加することは勉強のためと自分に厳しく言い聞かせていました。それが知らず知らずに自分の首を締め、毎日悔しく、辛い思いをしていました。そんな時にホストファーザーから言葉をかけてもらいました。「自分のワクワクすることをすれば良い。それが結果的にいい方向に進むんだよ。」と、思ひもよらなかったことを教えてもらいました。海外研修は自分の人生に変化をもたらすと思います。それは、自分自身の向き合い方で、研修をどんな意味にも変えられるからです。研修に参加したからこそ、気づけるもの、感じられるものがたくさんありました。



大好きな第2のお父さん

人間生活学部 児童学科2年 梶谷 美夢

08

August

International exchange

アジア諸国カトリック系大学間学生交流事業

第3回 フランシスコ・ボランティア キャンプ2018 in台湾



詳細はブログを
ご覧ください

8月4日(土)～11日(土)、台湾の高雄市にて「第3回フランシスコ・ボランティアキャンプ2018」が開催され、本学から4名の学生が参加しました。当該事業はボランティア活動を通してカトリック教育理念の理解を深め、各国の交流を深めることを目的として毎年開催されているものです。

4か国の交流、実りある日々に

4名のうち3名が森林公園での清掃活動、1名が老人ホームでのボランティアを行うグループに分かれ、韓国、台湾、インドの学生と活動を通じて交流を行いました。また、ボランティアだけでなく、交流会も催され、異なる国的学生で構成されたチームでダンスや歌のパフォーマンスをし、文化的理解と親睦を深めました。体験報告は本学ホームページに連載中です。



08

August

International exchange

ASEACCU(東南・東アジアカトリック大学連盟)国際学生会議

8月21日(火)～26日(日)、広島市のエリザベト音楽大学を主会場に、ASEACCU(The Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities)主催による国際学生会議が開催され、本学から英語英文学科の学生4名が派遣されました。

国際平和や世界に目を向けて

今年のテーマである、「Catholic Education and Peace Initiatives(カトリック大学と平和教育)」のもと、東南・東アジア各国のカトリック大学の学生・教職員約200名が集まりました。広島平和記念公園等でレクチャーを受けたり、各国からの学生とチームを組んでパフォーマンスを披露したりしました。10月31日(水)行った本学内の報告会では、学生が「平和について様々な国的学生とディスカッションし、平和への思いや、価値観の違いなどに気づくことができた」と話し、「国際平和や世界に目を向けて勉強していきたい」と今後の展望を語りました。



11

— November —

Event

岡山市との包括連携協定締結

11月2日(金)、ノートルダム清心女子大学は岡山市と地域振興や人材育成などの分野で包括的に連携、協力する協定を締結しました。同日10時より、岡山市役所にて締結式が行われ、大森雅夫岡山市長と本学の原田豊己学長が協定書を取り交わしました。

地域のため、人のために動くことができる学生を育成するために

この協定は、相互に連携協力して、それぞれが保有する知的・人的資源を有効に活用し、その成果を生かすことにより、地方創生に向けた地域社会の発展及び人材育成に資することを目的としています。連携事項は主として、地域の文化・生活・福祉の振興に関することと相互の教育及び人材の育成に関することです。具体的な取り組みとしては、すでに実施しているツボジョーワールド探検隊などがあります。新たな取り組みとして、①学生の視点からのシティプロモーションの実施、②若者定着に

向けた施策推進等のための共同研究などを始める予定です。今後の取り組み、活動の様子は随時大学ホームページで報告いたします。この連携事業が、地域のため、人のために動くことができる学生の育成につながる取り組みになることが期待されています。



08

— August —

Event

ツボジョーワールド探検隊

岡山市「平成30年度大学生まちづくりチャレンジ事業」に、2年連続で採択された「ツボジョーワールド探検隊」。日本語日本文学科の学生が岡山出身の小説家・児童文学作家「坪田譲治」のPR活動を通じて地域活性化に協力しています。

坪田譲治の世界を冊子で紹介

事業の一環として坪田譲治紹介冊子を作成しました。2018年8月に発行した冊子『坪田譲治「風の中の子供」』に会いに行こう—島田と天満を大冒險!—は、坪田譲治の代表作「風の中の子供」の岡山と関連する話題が特集され、2018年2月に発掘された貴重なスライドと朗読台本が紹介されています。さらに「風の中の子供」の舞台となる島田の古地図や天満の家の見取り図が掲載され、写真や図が充実した内容となっています。ツボジョーワールド探検隊は県内高校や吉備路文学館で朗読会を行っており、12月15日(土)

には本学で行われる第34回岡山市文学賞「市民の童話賞表彰式」で活動報告を行う予定です。



11

— November —

Event

「地産地消マルシェ2018」

「地産地消マルシェ」とは、岡山市の農業振興策として生産業者と飲食店をマッチングして新しいメニューやレシピを開発するなど、岡山市の「地産地消」の取り組みを盛り上げていこうという趣旨で開催されたマルシェ(市場)です。本学から学生15名が参加しました。

若い力で地域の魅力を発信

今年で3回目になる「地産地消マルシェ2018」(岡山市主催)に、学生たちが取り組みました。本学の地域連携センターが窓口となり、「地産地消マルシェ2018」の若年層を対象とした広報活動に参加しました。飲食店と協力して創作メニュー作りも行いました。今回のマルシェは11月3日(土)、岡山市・下石井公園にて開催されました。



07

— July —

Event

2017年度DOCOMOMO Japan ノートルダムホール本館・東棟が選定

DOCOMOMO Japanとは、ポルトガルの里斯ボンを本部とし、20世紀のモダン・ムーブメント(近代運動)に関する近代建築とその環境の記録・保存・評価・調査を行う国際的学術組織DOCOMOMO(略称:ドコモモ)の日本支部です。

清心が誇るモダニズム建築

7月3日(火)、ノートルダムホール本館と東棟がDOCOMOMO Japanによる「日本におけるモダン・ムーブメントの建築216選」に保存の重要性の高い近代建築として選定されました。ノートルダムホール本館・東棟は、「日本近代建築の父」アントニン・レーモンドの設計により建てられ、起工90周年を迎えた(竣工1929年)。日本における昭和初期のモダニズム建築として貴重な存在であり、今も当時のままで使われ続けている素晴らしい建築遺産であることから、2007年に国の登録有形文化財にも登録されています。



10月27日(土)～28日(日)に、第55回大学祭「Harvest!」が開催されました。この「Harvest!」には「収穫」「仕事の結果」という意味と、「Her best」自分たちのベストを尽くすという意味が込められています。当日は少し肌寒くもありましたが、2日間で約2,400名もの来場がありました。厳かなオープニングミサから始まり、学外から足をお運びくださったお客様で次第にぎわいを見せる大学祭。学生広報スタッフSPARKLEが取材しました。

第55回大学祭 Harvest! 2018.10.27-28

オープニングミサ

Q and A 大学祭実行委員長に インタビュー

Q 大学祭を通して伝えたいことは?

A 普段の大学生活では体験することの少ない学年や学科を越えた場で一生懸命取り組むことを大切にしています。大学祭の後、実行委員や、サークルでそれぞれがうまくいったこと、いかなかったこと、すべてを含めて、自分の力でやりとげたことを、今後につなげてほしいです。

Q 実行委員長として気を付けたことは?

A 自分の仕事と同時に、進行状況の把握や困っていることがないか知るために、全体を見渡さなければいけません。特にパーティーダーとは、校内ですれ違った時などの何気ない会話を通してフランクに話しかけやすい関係をつくれるよう気を配っていました。

Q 大学祭への思いをお聞かせください。

A 開催までに予定との大幅な違いや急な変更がありましたが、



臨機応変に対応することの重要性に改めて気づくことができました。当日は、問題も少なく、スムーズに進めることができました。今までの頑張りを、多くの人に見ていただけたことは、貴重な経験になりました。

【大学祭実行委員長】
現代社会学科 3年
森上 遥

【インタビュアー】
食品栄養学科 1年
荒木 梨里、江口 舞奈、梶原 美瑠

熱気あるパフォーマンス

-OTO GARDENS

大学祭2日目、カリタス200にて「OTO GARDENS」が開催されました。うらじやをはじめ、県内の高校生や県外の踊り連などが様々なジャンルのパフォーマンスを披露するイベントです。会場はほどよい緊張感に包まれていましたが、曲がかかると手拍子が起ったり、歓声があがったりと盛り上がりを見せっていました。また、出演者の発表を真剣な眼差しで見ている他の出演者の姿が印象的でした。

踊り連の一員の方は、「自分たちの一番の見せどころであるそろった動きを見てほしい。たくさん練習してきた成果を発揮し、見てくださる方に感謝の思いを伝えたい。」と話していました。普段の大学とはまた違った明るさや活気が感じられ、大学祭を盛り上げていました。来年はどんな団体がどのようなパフォーマンスを披露してくださるのか楽しみです。





素敵な雰囲気に包まれて -ミス・ミスターコンテスト-



今年で3年目 -パートリーダーにインタビュー-

昨年までは、ドレス会社にドレス提供と着付けをしていただいていましたが、今年はドレスだけの提供で、自分たちで着付けなど全部行うことになったので、不安でどう進めていくか悩みました。でも、毎年楽しみにしてくださるお客様のことや、候補者も楽しんでくださっていると考えたら頑張りました。また、いいものにしようたくさん工夫を重ねました。毎年ミスコンを終えるのを見ると、企画てきてよかったです達成感を味わうことができ、3年間やり遂げることが出来ました。

[パートリーダー]

食品栄養学科3年 中野 優子(右)
現代社会学科3年 藤澤 晶子(左)



[取材・写真]

食品栄養学科1年 荒木 梨里、江口 舞奈、梶原 美瑠

参加クラブ紹介

競技かるた同好会

今年結成されたばかりの「競技かるた同好会」。百人一首の歴史や歌の解説がわかりやすくまとめられた展示のほかに、実際にかるたを取ることができるスペースも設けられていて、お客様は部員の方にルールを教えてもらいながらかるたを楽しんでいました。



美術部

たくさんの部員が描いた個性溢れる作品がずらりと並ぶ教室。今年初めての取り組みという、大学祭のテーマ『Harvest!』から思い浮かべて描いた数点の絵は、それぞれ雰囲気が違っていて訪れたお客様の目を楽しませていました。



歴史広報部ヒストリアーノ

教室の前には、大きなジオラマや手作りの被り物などが展示されていました。今年のメインは「明治時代」。明治維新における風俗の変化、戦争が日本に与えた影響、文明開化などが詳しく書かれたパネルから、部員の歴史に対する愛が伝わってきました。



[取材・写真]

日本語日本文学科3年 岡本 有稀

Interview with **PROFESSOR** by SPARKLE

ノートルダム清心女子大学の個性豊かで楽しい先生や、おもしろい研究活動などを、学生広報スタッフ「SPARKLE」が紹介します。

01



文学部英語英文学科で、オーラルコミュニケーションや英文学を専門とし、英語演劇部の顧問でもある、リン・スワスキー先生に英語でインタビューを行いました。

文学部 英語英文学科
Lyn Swierski 准教授

02



今年度4月に着任され、人間生活学部人間生活学科で広告論、マーケティング論、メディア戦略論を担当されている葉口英子先生に専門分野と本学学生の印象について尋ねました。

人間生活学部 人間生活学科
葉口 英子 准教授

1年間のつもりが…

私が大学1年生だった1981年に、通っていたトリニティ大学(現トリニティ・ワシントン大学)がノートルダム清心女子大学と姉妹校になり、当時の学長Sr.渡辺が引率し、15人の清心生が留学してきました。その中の一人とルームメイトになり、その友人の影響もあって、1986年から清心の教員になりました。日本には1年間だけいるつもりが、30年以上もいることになりました！今では母娘と2世代に渡って教えている方もいます。

初めての教え子たちのことはとても印象に残っていて、今でも多くの卒業生と、良い友人関係が続いているです。

大好きな演劇を通して

私は演劇が大好きで、英語演劇部の顧問を32年間しています。部活動の中で学生たちには、「自信」を身につけてほしいと思っています。学生は慣れない英語でせりふを言い、そのうえ自然な演技をしなければなりません。その練習は非常に大変ですが、やり遂げたときの気持ちは何よりも大切なものです。その過程を経て成長する学生たちを見ることが私の喜びです。

これからを生きる女性たちへ

清心の学生たちはとても才能に溢れ、高い可能性を秘めていると思いますが、日本の女性は生き方を狭められている面があります。

仕事や家庭のほかに趣味でもボランティアでも周りの人を助けることでも、何かあなたの心が歌い、あなたが幸せを感じ、あなたが世界に役立っていると感じられることを見つけてほしい。自分の人生を楽しんでほしいと願っています。Because life is short and beautiful !

[インタビュアー]

現代社会学科 4年 田邊 佳子
英語英文学科 2年 田中 真央

ご専門との出会い

今の専門分野に出会ったのは大学院の修士課程の時です。文化・作品研究をしながらも、企業が宣伝するCM表現に関心を抱き、修士論文ではCM500本を分析し、各年代ごとの変遷をまとめ、「テレビCMの音楽と映像の相互作用」をテーマとしました。それが今の広告論、マーケティング論、メディア戦略論に繋がっています。

この分野を研究していく良かったことは、CMは日常生活の中で自然と目に入る所以、幅広い人たちに研究内容を理解してもらいやすいことです。

自分の人生という キャンバスをカラフルに

高校時代は、したいことができない、つまらないグレー色の学生生活だったので、大学では、多くの人と交流したり音楽や小説などの作品に触れ、自分の人生というキャンバスをカラフルにしたいと考えていました。

学生へのメッセージ

私の幼馴染の親友が清心の卒業生です。彼女は、仕事にプライドを持ち、美意識も高く、今なお女性として輝いています。本学の学生は控えめで落ち着いており、自分の芯を持っている人が多いです。真面目で手を抜かない学生たちだからこそ、時には肩の力を抜いて、柔軟な発想や対応で新しい時代を開拓していただきたいです。

[インタビュアー]

日本語日本文学科 4年 小川 真央、清水 真紀
現代社会学科 2年 由藤 万葉

課外活動



**中国学生卓球選手権大会秋季大会
女子ダブルス準優勝
全日本選手権出場へ**

8月27日(月)～30日(木)、松江市総合体育館で行われた第69回中国卓球選手権秋季大会において、本学卓球部が団体戦で第3位という好成績を収めました。女子ダブルスでも酒井陽子選手(児童学科4年)と西岡彩貴選手(児童学科2年)のペアが準優勝し、西岡選手は個人戦でもベスト8に入り、10月に開催された全日本大学総合卓球選手権大会へ出場しました。

課外活動



**夏季中国四国学生テニス選手権大会
女子ダブルス優勝
全日本選手権出場へ**

9月17日(月)～26日(水)、広島県・広域公園テニスコートなどを会場に行われた中国四国学生テニス選手権大会において、向井菜々帆選手(児童学科1年)と藤原瑠音選手(日本語日本文学科1年)が女子シングルスでベスト8入りしました。また、向井選手と藤原選手はペアで女子ダブルスにも出場し、1年生コンビながら快進撃を続け、見事優勝し、11月に開催された全日本学生テニス選手権大会へ出場しました。

学外活動



**上田 恭嗣 教授
2018年度 福武文化奨励賞受賞**

人間生活学部人間生活学科の上田恭嗣教授が、郷土の建築家 薬師寺主計の知られていなかった建築的価値を解き明かしてこられたことが高く評価され2018年度福武文化奨励賞を受賞しました。福武振興財団 福武文化賞・文化奨励賞は、岡山県の文化の向上に著しく貢献し、又は期待される個人、団体に贈られる賞です。2018年11月16日(金)に岡山市内にて贈呈式が行われました。

課外活動



**学生広報スタッフ「SPARKLE」誕生！
Student Publicity Activities
Relationships Knowing Learning
Exciting**

2018年4月、新たに広報室が設置され、10月に学生広報スタッフが結成されました。学生ならではの視点で、本学の教育研究活動を学内外に伝える役割を担います。全学に愛称を募集し、「SPARKLE」と命名されました。すでに今号では大学祭と教員インタビュー記事を学生記者として担当しました。様々な広報活動を通じて、本学学生一人ひとりのきらめく瞬間を発信します。

クリスマスミサのご案内

12月2日(日)からアドヴェントがはじまります。アドヴェントとはキリスト教において、イエス・キリストの降誕を待ち望む期間のことと、日本語では「待降節(たいこうせつ)」ともいいます。

本学では、12月6日(木)にツリーの点灯式、12月12日(水)にアドヴェントの集いが催され、12月23日(祝・日)にはクリスマスミサと児童学科音楽研究室によるファミリーコンサートが開催されます。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



2017年度クリスマスミサ

クリスマスミサ & コンサート

[日時] 2018年12月23日(祝・日)

- ミサ…………… 14:00～15:00
- 休憩(茶話会)……… 15:15～15:45
- コンサート…………… 16:00～17:30 (開場15:45)
(児童学科音楽研究室主催)

[場所]

- ミサ&コンサート… 本学カリタスホール(入場無料)
- 茶話会…………… 本学ヨゼフホールラウンジ
詳細は大学ホームページに掲載しています。

※公共交通機関をご利用ください。

オープンキャンパス3月(受験生、保護者対象)開催のご案内

オープンキャンパスは、ノートルダム清心女子大学を直接体験していただける絶好の機会です。
在学生のキャンパスナビゲーター・教員が、皆様をお待ちしています。



詳細はHPを
ご覧ください

[日時] 2019年3月17日(日)

[対象学科] 全学科

[予約開始] 2019年2月中旬

[内容] 学科企画、入試相談、学生生活相談、
在学生とのフリートークなど

[申込] ホームページよりご予約のうえご参加ください。

[お問い合わせ先] 入試広報部

TEL:086-255-5585

E-mail:apoffice@post.ndsu.ac.jp



キ文研デー 平和の祈り

6月28日(木)、大学聖堂にてキリスト教文化研究所主催で「キ文研デー 平和の祈り」が行われました。ナミュール・ノートルダム修道女会のシスター小田程子先生(大学2期生)をお招きし、清心高等女学校在学中に本学の寄宿舎(現ノートルダムホール東棟)で岡山大空襲を経験された時のお話を伺いました。学内に防空壕があつたこと、戦時中の疎開のことなど、苦難の日々を語られました。この日集まつた約90名の教職員と学生たちは、平和へのメッセージを発信し続けていくことの大切さを学びました。



詳細はブログをご覧ください



2018年度教育懇談会

9月29日(土)、2018年度教育懇談会を開催し、200名を超える保護者の方々に出席いただきました。各学科の会場では、学科長挨拶、教員紹介、カリキュラムや資格取得に関する説明、質疑応答、個人懇談が行われました。ラウンジに設けられた相談コーナーには、奨学金や就職に関することについて多くの保護者が訪れました。また、学生による就活体験・留学体験のコーナーでは、学生の生の声に熱心に耳を傾けていました。この教育懇談会を通して、保護者の皆様に本学の教育理念をより理解いただけるよう来年度も実施する予定です。



詳細はブログをご覧ください

称号授与

名誉教授 2018年4月 1日 福島 富士郎

2018年6月28日 水谷 節子、清板 芳子、梶谷 二郎

2018年7月24日 葛生 栄二郎

訃報

ご逝去されました故人の永遠の安らぎをお祈りいたします。

2018年7月23日 人間生活学部 人間生活学科 教授 葛生 栄二郎

今号は記念号のため、学生の保護者の方だけではなく、卒業生の方全員にもお届けいたしました。編集等にご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

(広報室)

編集後記

17年ぶりに学報をリニューアルした今年、学報編集委員として長く編集に携わつてくださった名誉教授お二人が帰天された。

おひとりは委員長として編集を統括された山下光昭名誉教授、もうおひとりは89号から200号の表紙をデザインされ、レイアウトのアドバイスをしてくださった香川昌久名誉教授。

山下先生は目立たないけれども一生懸命頑張っている学生や卒業生の活動を取り上げることを大切になさっていた。ご退職後も地域で地道に頑張っている卒業生の情報を送つてくださつた。香川先生は学報のみならず、大学の紋章やロゴタイプ、大学案内等の広報媒体に関わっておられた。「デザインとはデザイナーの思いどおりに作るものではない。クラインアントの思いをかたちにするものだ」とおっしゃつて、退職なさつた。

お二人が私たちに伝えたかったのは、「本学の学報」を作るということではなかつたが、「学報」とは時代が変わつても、伝える手段が変わつても、変わつていけない本学教育の本質を伝えるものだ」と教えてくださつたのではないだろうか。ここに201号が完成した。お二人が合格点を出されることはないだろう。しかし、「これからを楽しみにしてますよ」と微笑みながら見守つてくださつてゐるに違ひない。

今号は記念号のため、学生の保護者の方だけではなく、卒業生の方全員にもお届けいたしました。編集等にご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

聖書の言葉



学長 原田 豊己 神父

カトリック教会は、救い主イエス・キリストの誕生を伝統的に12月25日にお祝いします。多くの国は休日とされていますが、前日24日から前晩、夜半、早朝、日のミサをささげる習慣を実践するためです。

4回のミサで「ひとり子を救い主として、お遣わしになった」ことを、神の愛の証として体験します。

クリスマス休日は、単に労働を休む日ではなく、教会のミサに参加し、ともに救い主の誕生を祝い、この社会で小さくさせられている人々に思いをはせる日なのです。

「あなたがたのために
救い主がお生まれになつた」

ルカ福音書2章11節

Mini Serialization

Seishin Archives

今に続く清心の歴史をご紹介

ボランティア活動



1980年にマレーシア奉仕団が結成され、クアラルンプールの社会福祉施設に学生が派遣されました。その後もボランティアは、1995年阪神大震災復興支援ボランティア、2011年東日本大震災支援ボランティア、2016年熊本地震被災者支援募金活動、2018年の西日本豪雨支援プロジェクトに引き継がれています。ひとつぶ会、シグマソサエティなど学生のボランティア団体も日々の活動を続けています。

第1回マレーシア奉仕団員の「私たちにとって大切なのは一時的な奉仕ではなく、ささやかでもそれをつづけること」という思いを受け継ぎながら、いつの時代も、本学の教育理念である他者のために寄り添うことを大切にし、身近な人のために何ができるのかを考えながら活動しています。

ノートルダムの風景

聖ジュリー・ビリアート像

聖ジュリー・ビリアートはノートルダム清心女子大学の設立母体であるナミュール・ノートルダム修道女会の創立者です。「あなたは、あなたのすべてをご存じの神様に無条件に愛されているかけがえのない大切な存在なのです。だから、今のままの自分自身であっていいのです」という温かいメッセージを伝えた人でした。

正門西の前庭に聖ジュリー像は佇み、そこを通る学生、児童、園児たちを優しく見守っています。



1977年、第25期卒業生により寄贈されました



Cover : 人間生活学部 児童学科 4年 馬場 桢

大学陸上競技部所属。短距離走専門。在学中は入賞多数、2018年9月の屋島カーニバル大会では大会新を記録。卒業後は、地元で教員をしながら実業団チームで競技を続ける予定。

ノートルダム清心女子大学 BULLETIN Vol.201

発行 ノートルダム清心女子大学 広報室

2018年11月30日

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9
TEL(086)252-3107 <http://www.ndsu.ac.jp/>